

早稲田大学日本語教育学会 2010年春季大会

開催日 2010年3月20日(土)

【会場】早稲田大学早稲田キャンパス 15号館

- ・企画 第1会場(03教室) / 第2会場(04教室)
- ・口頭発表 第1会場(03教室) / 第2会場(04教室)
- ・ポスター発表 第3会場(15号館1階ホール)

【受付】9:50~10:20 15号館1階ホール

【開会式】10:20~10:30 第1会場(03教室)

【企画】10:40~12:40

時間	第1会場(03教室)	第2会場(04教室)
10:40~12:40	<p>企画A</p> <p>「自律的日本語学習の実現に向けてー学びをつなぐポートフォリオとは何かー」 <発題者></p> <p>武一美・古屋憲章・坂田麗子・市嶋典子・尾関史・田中里奈(以上、日本語教育研究センター)浅井涼子・井口翔子(以上、大学院日本語教育研究科修士課程)</p>	<p>企画B</p> <p>「外国人介護福祉士候補生の日本語教育について考える」 <発題者></p> <p>中野玲子(すみだ日本語教育支援の会)・宮崎里司(早稲田大学大学院日本語教育研究科)・吉井敦子(介護老人福祉施設加世田アルテンハイム施設長)・早川直子・奥村恵子(以上日本語教育研究センター)</p>

【ポスター発表】13:30~14:30

時間	第3会場(15号館1階ホール)
13:30~14:30	(1) 日本語教育において「遺産日本語教育」の概念はなぜ必要なのかー南米の日本語教育の動向をめぐってー トロイツカヤ ナターリヤ
	(2) 「ことば」の成長を捉える日本語教育ー「不登校」や「ドロップアウト」の問題を抱えた外国につながる子どもへの支援からー 金丸 巧
	(3) 人文科学系の学術論文における「と考えられる。」「と思われる。」の使用ー「結論」での出現に注目してー 辛 璟恩
	(4) 社会づくりのための日本語教育とはー「にほんご わせだの森」という場の形成過程と意味からー 井上 春菜
	(5) 出会いの場面における「オツカレ系」の考察ー大学生の使用に焦点をあててー 宋 美娟・金 桂英・鄒 琳・東田 明希子
	(6) 「繰り返し」による語彙の定着に重点をおいた漢字指導の一試案 木村 祐子・北村 尚子
	(7) 年少者日本語教育実践における「ポートフォリオ」の可能性ー主体的かつ協働的な日本語学習・日本語支援を目指してー 浅井 涼子

【口頭発表】 14 : 40～16 : 55

時 間	第 1 会場 (03 教室)	第 2 会場 (04 教室)
14:40~15:10	<p>年少者日本語教育に求められるコーディネーターの役割 ー学校現場に対して〈ことばの課題への意識化〉を促すー</p> <p style="text-align: right;">川上 さくら</p>	<p>因果関係を表す接続詞「だから」「それで」「そこで」の違い ー文章展開機能の観点からー</p> <p style="text-align: right;">王 金博</p>
15:15~15:45	<p>「実践研究」が年少者日本語教育実践にもたらす意味 ーある JSL 中学生への日本語支援を例にしてー</p> <p style="text-align: right;">井口 翔子</p>	<p>関係性としてのアイデンティティをめざす ー言語教育における自分誌活動の可能性ー</p> <p style="text-align: right;">高橋 聡</p>
15:50~16:20	<p>総合日本語 (SP3・SP4) 3S クラスにおけるポートフォリオ活動の試み ー「日本での生活・日本語学習の振り返り」の実践と分析ー</p> <p style="text-align: right;">塩谷 奈緒子・古賀 和恵</p>	<p>日本語母語話者の聴覚印象による韓国人日本語学習者の日本語リズムの生成の傾向</p> <p style="text-align: right;">曹 秀弦</p>
16:25~16:55	<p>年少者日本語教育研究から大学課程における日本語教育を問う ー教師と学習者相互主体的なクラス作りを目指してー</p> <p style="text-align: right;">間橋 理加・坂田 麗子・木村 祐子・森沢 小百合</p>	<p>作文内容を中心とする教室内のコミュニケーションの有効性 ー日本語学習者の作文の内容面と言語形式面からー</p> <p style="text-align: right;">張 珍華</p>

【総 会】 17 : 00～17 : 30 (第 1 会場 03 教室)

【懇親会】 17 : 50～19 : 00 (22 号館 8 階会議室)